

※リアルタイム字幕配信の字幕情報であるため、誤字・脱字等がある可能性があります。

令和6年4月1日(月) 会見

司会／それでは4月1日年度初めの会見になりますけれども、これから始めます。

最初に知事から発言があります。

知事／それでは、令和6年度に入って最初の会見を始めたいと思います。

私からは7点お話を申し上げたいと思っています。

まず最初ですけれども、今日お越しいただいていますけれども、新しい県立美術館の館長として、笠原美智子さんをお迎えをしました。

笠原さん、後ほどご本人にお話をさせていただこうと思いますけれども、茅野市のご出身ということで、東京の京橋にありますアーティゾン美術館の副館長を務めてこられました。これまで東京都写真美術館、あるいはアーティゾン美術館では、ジェンダー、あるいはフェミニズム、こうしたものをテーマにした企画展などを数多く手掛けてこられたとお伺いをしています。

県立美術館、開館から3年が経過ということで、前任の松本館長にも、美術館の草創期、大変なご尽力を頂きました。ぜひ笠原新館長にも、これまでの取組を引き継ぐだけではなくて、さらに発展をさせていていただきたいと思っています。

それでは笠原新館長から、少し自己紹介、抱負等をお話いただければと思いますので、よろしくお願い致します。

笠原／笠原美智子と申します。ご紹介ありがとうございます。皆さんお集まりいただきありがとうございます。もちろん私の就任だけの記者会見ではないというのは承知しています。

現在、就任1日目ということで、先ほど吉本理事長より辞令を頂きました。先ほど知事がおっしゃってくださったように、私は茅野市の出身なのですけれども、18歳で東京に出て、こういう形で戻ってくるとは本当に夢にも思わなかったもので、とてもうれしい気持ちと不安な気持ちがないまぜになっています。

美術館について、松本前館長、それから美術館の職員、それから財団の職員の人たちの非常な努力のもとに、外から見ても現在の長野県立美術館、2022年にリニューアルオープンして以来、とても注目されていると思います。建物の風通しの良さとか、気持ちの良さ、善光寺と篠山が見えるというその立地条件もさることながら、展覧会の企画も、県の出身者、ゆかりの作家を地道に調査して何かやるというだけではなくて、幅広い分野の展覧会をやっているという印象です。

特に、私が全く本当に館長なんて夢にも思わなかったもので、もう一つ申し上げておくと、アーティゾン美術館の時にも副館長なんてもう全く夢にも思っていなかったもので、そういうところに来るのがそういう道なのかなと思いますけれども、外から見ている、長野県立美術館、私がとてもすごいなと思ったのは、松澤宥さんであつたりとか、これからやられると聞いている、まだ発表もされていない作家たち、本当に長いこと地道にその作家とそれから財団とか、ご遺族の人たちとかなり親密な調査のもとに、その

成果として展覧会をやっているという、そこが非常に印象的でした。

それからもう一つ、もちろん中谷さんの「水辺テラス」は、私たち現代美術を専門とする者としては、もう本当にうらやましいくらい、他の美術館がうらやましいと思われるような作品が常設されているとも思います。冬は駄目ですけども。

知事からいくつか宿題を頂いておりまして、もう一つは学習プログラムの充実、それから県内ネットワークのより充実、それから海外・国際化ということです。

それについてはラーニングプログラム、学習プログラムというのは、ずっと私はラーニングプログラムと言っていたのでごっちゃになってしまいますけれども、同じことを指していますが、学習プログラムについては、長野県立美術館は、かなり現在でも充実している、他の美術館と比べて充実しています。

ただ、どうしても学習プログラムというと小学校、中学校、高校、学生と若い人たち、それからファミリープログラムのようなところに目が行きがちですけども、やはり学習プログラムというのはいろんな人たち、いろんな状態の人たち、いろんな年代の人たちに届けられるようなものができればいいなと思っています。

私は現在、帯状疱疹後神経痛という、左胸から脇下、それから左の腕のところまで、かなり激痛がずっと走っている状態です。66歳になったので前期高齢者です。年を取るというのは、みんな年を取るのですけれども、4年もこういう状態であると、やはり痛みがあるとか、障がいがあるということが自分自身の一部になっていて、それでなければ、こういう経験をしなければわからない、知見みたいなこともあるんじゃないかと思っています。

そこから、さっきも美術館の人たちと言ったのですけれども、本当に疲れた大人のための、寝ちゃってもいいゆるゆるプログラムみたいな、そういったものもいいんじゃないかなみたいに、これは私の思いつきなので、「やる」ということではないですけども、そういういろんな状態の人たちのプログラムがあったらいいのかなと思います。

県内ネットワークについては、これも他県の学芸員が、この間アーティストの元同僚が上田に来てこの状態を見て、こんなにネットワークがある県も珍しいですねって、感銘して帰ってきたのですけれども、せっかくそういうネットワークができていますので、それをより充実させるためにいろんなことを考えていきたいと思っています。

それから、海外のネットワークですけども、海外ネットワーク、国際化というと、トリエンナーレとか、ビエンナーレとかということを考えますけれども、トリエンナーレ、ビエンナーレのような国際展というのはやはり打ち上げ花火で、もう2000年以来いろんな、横浜のトリエンナーレは今やっていてとても有名ですけども、横浜が皮切りでいろんなところでやっていて、もう本当に、後出しじゃんけんをしてもしょうがないので、それよりももっと地道な学芸員だったら学芸員、広報だったら広報という、そういう美術館、それから個人レベルのネットワークを築きながら、それから、その築いたネットワークの末に展覧会なり事業ができるような、そういう将来に向けての人を育てる、それから投資をする、お金ではなくて、いろんな人を育てるといって投資をしていくという、そういった少し長い目で見るといい方法を考えているのではないかと思います。

何しろ今日就任したばかりですので、下手なことを言うと、言ったじゃないかと言われそうでとても怖いのですけれども、とりあえずまだ勉強不足の状態ですが、以上で私のつたない話を終わりにします。ありがとうございました。

司会／それでは、ここで笠原館長へのご質問をお受けします。知事へのご質問についてはこの後お時間を取りますので、そちらでお願いします。

では、笠原館長へご質問ある方は社名とお名前をおっしゃってからお願いします。いかがでしょうか。

記者／信濃毎日新聞社の福島と申します。よろしく申し上げます。

笠原新館長のお話で、松澤宥さんのお名前の展示の話が今出ましたけれども、県立美術館に期待されることとして、県内にゆかりのある館長がおっしゃっていたような、県内にゆかり、県内出身の作家の発掘ということも期待されると思うのですけれども、今、教えていただける範囲で、どのようにそのあたりを発掘されていくのか、県民に親しんでもらえるようにするのか、お考えを教えていただければと思います。

笠原／ありがとうございます。ゆかりというのは、ここで生まれたというだけではなくて、長野に住んでいたとか、それから、何ですかね、何らかのきっかけで長野とつながりがあるという、いろんな意味でのゆかりという言葉が使えると思います。

名前は何人か浮かぶのですけれども、今それを言うと少し問題かなと思いますので、学芸員の仕事は基本的に地道な調査なので、そのところはもうベテランの学芸員が多くいますので、一人ひとりの専門分野で調査をしながら、私ができることは、こんな方もいるよ、こんなこともあるよということを情報としてお渡しするということをしていきたいと思います。

なかなか現代美術の専門で、それも現代の写真の専門で、それもごてごてのフェミニストというのはなかなかいないと思いますので、そのところは強要はしませんけれども、伝えてはいきたいと思います。

記者／ありがとうございます。

司会／ほかにご質問ある方いらっしゃいますか。よろしいですか。

それでは、笠原館長ありがとうございました。

笠原／ありがとうございました。

知事／どうも笠原館長、ありがとうございました。よろしく申し上げます。

また文化振興事業団、吉本理事長はじめ関係の皆さんと一緒に、私も県立美術館が発展するように取り組んでいきたいと思っています。笠原館長の色を出していただきながら、発展をさせていただければと思います。よろしく申し上げます。

あと新しい館長の下、お配りしたミュージアム・カレンダー、そこにも貼らせていただいていますけれども、本年度様々な展覧会、あるいは県内での移動展を開催をします。ぜひ、メディアの皆様方にも、引

引き続き県立美術館の活動にご理解とご支援いただければと思いますので、よろしく申し上げます。

どうも、笠原館長、ありがとうございました。

続いて2点目ですけれども、令和6年度の予算執行方針についてです。

部局長会議の資料でお配りをしているかと思えますけれども、今年度の予算執行に当たっての考え方について記しています。改めて申し上げるまでもなく、「しあわせ信州創造プラン3.0」、県の総合計画の2年度目という形になりますので、本格的な推進を図っていきたいと思っておりますし、また能登半島地震の教訓を踏まえた地震防災対策の強化、さらには「かえるプロジェクト」の推進、こうしたことにも取り組んでいきます。

特に財政改革の実行と記載していますが、経済環境もだいぶこれから変わってくるだろうと予想されますので、長野県の財政のあり方についても、今一度しっかり見直しをして、持続可能なものにしていかなければいけないと考えています。

「かえるプロジェクト」で、業務の減量化、効率化ということも併せて進めていかなければいけないと思っておりますので、両面相まって、県民の皆様方にとって、真に必要な事業については、充実、発展、強化をさせながらも、時代の変化とともに必要性が低下してきているような事業については廃止・見直しを行うなど、持続可能な財政運営に向けた本格的な検討を行っていきたいと思っております。

引き続き県民の皆様方のご期待に応えられるような県政運営とともに、財政運営も行っていきたいと考えています。

それから3点目ですが、能登半島地震に関連して先週26日と27日に、石川県それから富山県を訪問してまいりました。石川県で馳知事、それから金沢市の村山市長、それから輪島市の坂口市長と懇談し、併せて輪島市内の状況についても、駆け足ですけれども拝見し、県職員が応援をしている避難所も訪問しました。また、翌日は富山県庁を訪問して、新田知事と懇談をしたところです。

被災地訪問した実感としては、まだまだ非常に息の長い支援を長野県として行っていく必要があるなと考えています。馳知事からもほぼ人材派遣のご要請を頂きましたので、今日から県庁職員を派遣をしています。

これはすでに発表したとおりですけれども、今後とも必要に応じた応援も行っていきたいと思っておりますし、特に各県・市に対しては、長野県としては県民本部を設けて、県行政だけではなくて様々な団体の皆さんとともに応援体制を組んでいるので、何でもご要請いただきたいということでお話をしています。いろいろなルートで支援に入っていますので、また県民本部等で問題意識や状況認識を共有して、被災地支援を着実に進めていきたいと思っております。

また一方で、今回の能登半島地震の教訓を、県の地震防災対策にもしっかり生かしていきたいと考えています。避難所のあり方であったり、あるいはトイレのあり方であったり、あるいは、笑顔プロジェクトの皆さんとも懇談をしましたが、重機を使った早期の対応のあり方であったり、様々県としても考えるべき点があると思っております。

できるだけ早く地震対策の方向性をお示しできるように取り組んでいきたいと考えています。最終的には、アクションプランという形で取りまとめを行っていきたいと思っております。

それから4点目ですが、紅麹を含む健康食品による健康被害の拡大に関連してです。

小林製薬の紅麹を含む健康食品を摂取された方の健康被害が全国的に相次いでいる問題で、大阪市が、小林製薬に対して回収を命じる行政処分を行ったところです。すでにお伝えしているように、県内でも2

名の方に対象製品との関連が疑われる健康被害が発生している状況です。この対象となっている健康食品がお手元にある場合は摂取しないようにしていただきたいと思ひますし、また小林製薬で回収を行っていらっしやいますので、回収にご協力を頂きたいと思ひています。

また体調不良がある方、この小林製薬の紅麴を含む健康食品を摂取して体調不良があるという方については直ちにかかりつけ医と相談をしてもらいたい、医療機関にまずご相談いただきたいと思ひています。また体調不良がない方についても健康に不安のお持ちの方もいらっしやると思ひます。そうした方はぜひ保健所にご相談を頂ければと思ひています。

引き続き、われわれもしっかり情報を収集しながら、必要な情報発信に努めていきたいと思ひています。

続きまして、リニア中央新幹線の関連で、静岡工区のモニタリング会議が先週開催をされました。工事契約締結から工事に着手できないまま、静岡工区については6年4ヶ月経過ということで、2027年の開業が実現できないと。また静岡工区にいまだ着工の見込みが立たないということから、現時点で新たな開業時期を見通すことができないというご説明がなされたようです。このことは非常にわれわれとしても、重大なことだと受け止めています。

すでに関係の市町村長等コメントされていらっしやいますけれども、JR 東海が進めている定めたスケジュールに沿って協力・対応を行ってきましたし、これは国の認可を得てそういう形になっているわけです。そういう意味で、まずは地元の皆さん、そしてわれわれも含めた関係者に対して十分な説明をしっかり行ってもらおうということが必要だと思ひています。

長野県内、例えば、非常にリニア新幹線の開業に期待をされている方たちが大勢いらっしやいます。開業時期が大幅に遅れるということになると、例えばまちづくりであったり、あるいは企業誘致だったり、こういったことにも大きな影響が出るわけですので、JR 東海にはそうしたことにもしっかり念頭に置いた対応をこれからしていってもらわなければいけないと思ひています。

また、この工事に様々な形でご協力を頂いている方たちがいらっしやいます。やむなくお住まいを立ち退かざるを得ない方々、あるいはダンプの通行を我慢していただいている皆さん。JR 東海は単に工事が進まないから工事が延びるということだけではなくて、多くの皆さんが協力をしながら、我慢しながらこの工事を支えてきてもらっているということをしかりと自覚してもらわなければいけないと思ひています。

これまで JR 東海には、常々地元の皆様方の理解と協力がなければこの事業は進んでいきませんよという話をしてしますので、そうした点は理解はされているのだろうとは期待をしていますけれども、これまで以上にしかりと説明責任を果たしていただくことが重要だと思ひますし、単に進まないから延びましたということだけじゃなくて、一体どういう状況になっていくのか、あるいはどれくらい本当に延びてしまうのか。その間、地元に対して地域に対してどのような対応をしていくのか。こうしたことについても、しかりとまずは説明してもらわなければいけないと思ひています。

このリニア中央新幹線については全国新幹線鉄道整備法に基づいて国が認可をされているわけですので、国においても、JR 東海の事業、事業主体は JR 東海ですけれども、国においても、ぜひしかりと責任を持って対応していただきたいと思いますし、静岡工区でいろいろ課題がある中で足踏みをしているという点については、これはぜひ静岡県にだけ問題があるわけじゃないと思ひます。

われわれ長野県内においてもいろいろ課題がある中で、地元の皆様方の理解と協力を得ながら、この

工事の進捗を図ってきたわけですので、静岡県においても、リニア中央新幹線の整備促進、一緒に進めるという立場を、川勝知事も明言されていらっしゃるわけですから、ほかの県の地域の状況等も踏まえた上で、ぜひ1日も早く課題の解決を行っていただきたいと思います。

これまでの県内の工区については予定どおり進めていくと説明を受けてきましたが、何となく県内も難しくなってきたつあるというような説明をされているということではないのですか、リニア整備推進局。ということですので、であればなおさら個別具体的な説明をしっかりとJR東海には求めていきたいと思っています。

引き続きわれわれとしては、関係市町村あるいは、地域の皆さんの思いをしっかりと受け止めながら、JR東海と向き合っていかなければいけないと考えています。

それから、県政参与についてです。新しく県政参与にお二方お願いをしたいと思っています。

おひと方は千本倅生氏、そしてもうひと方は神野直彦氏、このお2人です。千本氏はKDDIの共同創業者です。通信事業の開拓者としてその実績が高く評価されている方ですし、最近では脱炭素社会に向けてのお取組、あるいは虐待を受けた子どもたちへの支援活動、幅広い活動をされていらっしゃる方です。これまでご活躍されてきた幅広い識見を、ぜひ長野県の発展のために生かしていただきたいと。DX、デジタル化の推進であったり、あるいはゼロカーボン社会の実現であったり、さらには若者に対する支援様々な分野でご助言をいただきたいと考えています。

それからもう一方、神野直彦先生は東京大学名誉教授でいらっしゃいます。地方財政をご専門とされていらっしゃるわけでありまして、長野県の総合5か年計画の策定にもいろいろとご助言を賜ってまいりましたし、今まさに観光振興財源の検討に当たって、部会長として直接的にご尽力いただいています。今後国と地方との関係のあり方、あるいは地方自治の充実と、長野県として取り組んでいくべき課題はたくさんあるわけですが、ぜひ神野先生のお力をお借りしながら、国と地方の関係、地方分権のあり方、様々な課題と同時に、こうした大きな制度的な取組にも助言いただいてまいりたいと考えています。

以上、お2人の方を今回県政参与としてお願いをしたいと思っています。

それから、最後になりますけれども、発達障がいとの関係で発達障害啓発週間に合わせて県としての普及啓発に取り組んでいきたいと思っています。ぜひ皆様方にもご協力とご支援を頂ければと思っています。

お手元にプレスリリース資料を配りしているかと思いますが、毎年4月の2日、明日ですね。国連が制定した世界自閉症啓発デーに当たっています。この日から8日までの間を発達障害啓発週間ということで国で位置付け自閉症をはじめとする発達障がいの理解を促す取組が行われています。

本県においてもこの取組に合わせて普及啓発を行っていききたいと思っていますけれども、発達障がいという呼称については、最近は広く浸透してきているものと考えていますが、まだまだ正しく理解されていない点があると思っています。例えば発達障害、本人の性格の問題、あるいは怠けているのではないか、そうした理解であったり、あるいはこれは家庭の育て方が悪いのではないかとといったような誤った理解がいまだにされていると思っています。

ぜひ明日からの啓発週間を契機に多くの皆様方に医学的知見に基づいた正しい理解をお願いをしていきたいと考えていますし、そのことを通じてより多様性が認められる社会の実現を目指していきたいと考えています。

プレスリリースにあるように、この分野で非常に知見をお持ちの本田秀夫先生、発達障がい情報・支援センター長を引き受けていただいていますけれども、本田先生と私との対談の動画も公開をしています。

多くの方たちが発達障がいということで、いろんな困難な課題に直面されていらっしゃると思います。ぜひ多くの皆様方が正確にこの発達障がいを理解していただいた上で、みんなで支え合い助け合って暮らすことができる、そうした長野県づくりの実現にご協力いただければと思っています。

なお発達障がい情報・支援センターはこの4月で発足から1周年という形になります。本田センター長をはじめスタッフの皆さんには大変なご尽力を頂いています。電話相談、あるいは市町村等の支援者向けの研修の実施、あるいは講師の派遣、ホームページ等での情報発信、様々ご協力いただいているわけです。こうした取組も県としてさらに一層充実をさせてまいりたいと考えています。

私からは以上です。よろしく申し上げます。

司会／それではご質問をお受けします。ご質問のある方は社名と名前をおっしゃってからお願いします。

では、挙手をお願いしたいのですが、では後ろから真ん中の列の後ろから2番目の方をお願いします。

記者／すいません、信濃毎日新聞の井出と申します。まずリニアのことで伺いたいのですけれども、知事は今、十分な説明が必要ということをおっしゃいましたけれども、今回そのJR東海からは、県や市町村にどのような説明があって、県としてそれを十分と受け止めているのか。また十分でないという場合は、今後県から情報を出すようにJRに要請する考えはあるか、その点についてお聞かせください。

知事／まずどのような説明があったか、リニア整備推進局から説明してもらえればと思います。よろしく願います。

担当課／リニア整備推進局です。JR東海からは、やはりだいぶ掘削の状況等ですね、そういったものが芳しくないというような状況をお聞きしています。今後、今現在非常に厳しいというようなことをお聞きしている状況です。それとJR東海については、今後、地域の皆様方に対して、遅れる状況について丁寧に説明をしていくというようなこととお聞きしています。

知事／私としては、これまでも地域の皆さんの理解と協力なしには事業は進んでいかないということ、再三繰り返しお伝えしてきたところです。今回の対応についても、もっともっと地元優先で対応をしていただく必要がある部分もあったのではないかと思います。

県は現場とは少し離れていますので、やはり地元の皆さんとか、地元の市町村の皆さんがどう受け止めるかということが私は最も重要だと思っています。そういう意味で、私としては、関係の市町村の皆さん、地域の思いとか、地域の課題とか受け止めていらっしゃるわけですので、地元の市町村ともしっかり連携を取らせていただきながら、対応していきたいと思っています。

本当に先ほど申し上げたように、地域の皆さん、何とかリニア整備が進むのであればということでご協力、ご理解いただいている方が大勢いらっしゃると思っています。そういう皆さんの思いをしっかりと受け止めて対応していきたいと思っています。

記者／もう一点、リニアで県内の工事でも難しい部分があるとおっしゃっていましたが、県内の工事の、例えばその目標の年度の変更だったりとか、そういうことも今後JRに聞いていくだったり、その

説明を求めるといふことはあるのでしょうか。

知事／県内の工事の変更があるということがあれば、われわれから求めるのではなくて先方から責任を持って説明してくるのが当然だと思っていますので、私は、JR 東海にはそうした誠意を持った対応を引き続き求めていきたいと思っています。

記者／わかりました。すいません、もう一点、県政参与について伺いたいのですけれども、委嘱は平成 25 年以来ということで、だいぶ久しぶりだなという感じはあるのですけれども、このタイミングで委嘱した意図というか狙いというか、そこらへんのことについて少し教えてください。

知事／これまで飯島参与、それから中村参与、お亡くなりになられた大森参与、お三方に委嘱して、大森先生はお亡くなりになったわけで、今お 2 人という状況ですけれども、今回新しい総合計画を本格的に進めていくに当たって、様々な分野で実績をお持ちの方の知見をぜひ長野県のために役立てていきたい、ご協力いただきたいという思いで検討しました。

その結果、先ほど申し上げたお二方、千本さんは、ある意味経済界、実業界の中での非常に実績をお持ちの方ですし、神野先生は、ある意味地方財政といえども神野先生と言っても過言ではないほど造形が深い方です。お 2 人の強力なご支援を頂く中で、ぜひ県政推進に一層の弾みをつけていきたいと思っています。

記者／ありがとうございます。

司会／ほかにいかがでしょうか。

廊下側の後ろから 3 番目の方お願いします。

記者／中日新聞の清水です。リニアの関連で、JR 側から説明があったというようなお話でしたけど、いっつどんな形で説明があったのかを教えてください。

知事／リニア整備推進局からお願いします。

担当課／JR 東海からは、実際に説明があったのは、3 月 21 日の木曜日です。こちらで実際に工期が変更になる旨を、翌週のモニタリング会議、国の静岡工区のモニタリング会議で説明するというような趣旨をお聞きしました。実際に先週金曜日にモニタリング会議が行われまして、説明をしたということが、会議が終わってから電話で連絡を受けたところです。

記者／ありがとうございます。あと知事がおっしゃっていた県内の工期についても遅れそうだというお話は JR 側からあったわけではなく、この静岡工区の遅れに伴うことでありそうだという、県側の想定なのかどちらでしょうか。



知事／私は内容をよく聞いてないのでわからないのですが、あの地元での説明会では難しいというお話があったと聞いていますが、そこらへん説明してもらえますか。

担当／こちら、21 日木曜日に大鹿村の地元の協議会の中で、実際に工期に間に合うか厳しい状況であるというような説明がされているところです。

記者課／具体的にどのぐらい遅れるというような、そこまでの話はなかったということでしょうか。

担当課／はい、そういったお話はまだございません。

記者／わかりました。この JR の発表に伴って、長野県が進めている道路の整備事業などがあったかと思えますけど、この工期の遅れに伴って何か影響があるとかそういったことはありますでしょうか。

知事／そうですね。私は直接聞いていないので何とも申し上げられないというのが正直なところです。JR 東海には、事業はちゃんと予定どおり、少なくとも静岡工区以外はやってもらうという前提で考えてきていますので、仮にそうではないということになれば、それはしっかり説明してもらわなければいけないと思っています。

記者／ありがとうございます。

司会／ほかにいかがでしょうか。

では廊下側前から 2 番目の方お願いします。

記者／市民タイムスの萩原と申します、よろしく申し上げます。予算執行方針の関係でお伺いしますが、知事も今おっしゃった財政改革、持続可能な財政運営に向けて本格的な検討とおっしゃる中で、神野先生が参与と、興味深く聞かせていただいたのですが、この財政改革の実行の中で、五つ目のポツで新たな財源確保の検討とありますけれども、今、観光振興財源等々進んでいます、知事のお考えの中で、さらに財政厳しくなっていくというのはここにもありますように、財政運営厳しさが強いられてくるという中で、新たな財源確保の件で、今知事の頭の中で、こんな分野でこんなことができるんじゃないかというようなものが、もしお考えあればお聞かせ願えればと思います。

知事／あまり何か思いつきみたいなことを軽々に申し上げるわけにはいかないですけども、一つは「ガチなが」という形でふるさと信州寄付金についても、返礼品を必ずしも出さないけれども多くの皆様のご協力を今までも得てきていますし、もっともっと長野県のこれから取り組んでいく方向性をしっかり打ち出すことによって協力者を増やしていきたいなと思っています。

またこれは本来的な部分ですが、デフレ経済から日本全体が脱却しつつある方向性になる中で、そういう意味では本来の形での税収を上げていく努力ということも重要だと思っています。加えて、観光振興財源のお話も頂きましたけれども、われわれとして必要な財源を確保する上では、こうした税というあり

方も、いつも国が決めて税金を徴収して地方に補助金とか交付金で配分するといったようなこと自体が、地方の独立性を私は大きく阻害する要因ではないかと思っていますので、もっともっとわれわれ自身も、自ら財源を確保するための努力をしていきたいと思っています。

記者／わかりました。ありがとうございます。

司会／ほかにいかがでしょうか。

廊下側一番後ろの方お願いします。

記者／NHKの大場と申します。私もリニアについてなのですけども、時期については多分まだ出てないところだとは思いますが、知事の方から改めてJR東海に対して、いつ頃に延期されるのか時期がどうなるのか明示してほしいということを求める考えはありますか。

知事／それは難しいと言うかもしれないですけど、求めますよね。当然われわれは認可された計画に基づいてこれまで協力してきているわけですから、その前提が変わるということになれば、当然求めていかなければいけないと思っています。

記者／あともう一点、静岡工区のところが難しいというのが現状あると思うのですが、例えば近隣の県と連携をして、何か今後働きかけをするなりそういったお考えはございますか。

知事／建設促進同盟に川勝知事もお入りになられているわけですので、静岡工区の問題は静岡県だけの問題ではないと思いますので、ぜひ問題を共有していただければ、一緒になって解決策の検討をしていくのは何らやぶさかではありませんし、これは国において今いろんな検討を進めてきていただいているわけですけども、あらゆる検討はされてきていると思いますので、何をいつまでにどうするかということの具体的なスケジュールを、ぜひともわれわれも共有をしていただいで進めてもらいたいと思います。

記者／わかりました。ありがとうございます。

司会／ほかにいかがでしょうか。

では真ん中の前から2番目の方お願いします。

記者／朝日新聞の高木と申します。お願いします。リニアの対応について伺います。

知事は先ほど、JR東海の今回の対応についてもっと地元優先で対応していただく部分もあったのではないかとご発言がありましたが、具体的にどういった部分に対応として不十分であったとお感じですか。

知事／国のモニタリング会議でいろいろご説明されるのも別にいいことだと思いますけれども、こうした事業がどうなっていくのかということに対して大きな関心を持っているのは、やはり地元の住民の皆さま

んであったり、市町村の皆さんであったり関係者の皆さんになりますから、そうした皆さんに対する説明ということも、ほぼ同時とかですね、それぐらいのタイミングでしっかりやっていただくということが、地域の皆さんとの信頼を維持する上では重要ではないかと思っています。

記者／ありがとうございます。

司会／ほかにいかがでしょうか。では真ん中の列の一番前の方をお願いします。

記者／信濃毎日新聞の川田と申します。同じテーマで質問が続いて恐縮なのですが、リニアについてなのですけれども、東海の方は今回の工期が遅れるということ、ごめんなさい、全体の開業の遅れということについて静岡工区が大きな理由と挙げられています、私どもから見ると、トンネル掘削の見通しの甘さですとか、残土処理の問題とか、課題は様々あると思います。知事からしてこの開業が遅れるということと自体の原因というのはどういうところにあると考えていますか。

知事／いや、私は直接まだ説明聞いてないので、リニア整備推進局には十分ちゃんと説明をよく聞いてくれと言っている状況ですから、何が要因かということは今私から申し上げることは難しいです。

ただ、静岡工区だけではなくて、全体的にどういう課題があるのかということはしっかり共有していただかないと、われわれとしてもこれまでいろんな形で協力をさせてきていただいているわけですから、まずその信頼関係を裏切ることがないように対応していただきたいと思っています。

記者／リニアでもう一点、すいません、冒頭知事から、まちづくりとかかなり大きい影響が出るというお話ありまして、そういうことも念頭に置いて対応していただきたいというお話でしたけど、東海に対してはその具体的な説明会、説明を求めるということ以上に、何か具体的にこうこうこうしてほしいという求めはありますか。

知事／先ほども申し上げましたけれども、これは県だけの問題ではなくて、どちらかというとならぬ地元の方が皆さんが何に困られるのか、あるいは何を期待しているのかということ、まずよくわれわれも把握をしたいと思っています。

例えばこれまでも大鹿村の皆さんは、例えば観光への影響でダンプの通行期間の問題、JR 東海にも一定程度理解していただきながら対応してきているわけですが、そうしたことも含めて地域の皆さんと一緒に、今これから未来に向けて、どういう課題があるのかということ、しっかり共有した上で、JR 東海にも必要な対応を求めていきたいと思っています。

記者／もう一点だけ、県政参与についてなのですけれども、今時代に合わせた起用の理由というのは先ほどおっしゃっていただいたとおりだと思いますが、委嘱がだいぶ間が空いたと、この理由はこれまでにいろんな課題でお願いするタイミングもあったかと思うのですが、この間が空いた理由は何かありますか。

知事／特にこれが理由ということはないですけども、率直に言って令和元年から昨年までの間は、もうほとんど平時モードではなくて、災害対策、コロナ対策モードでずっと来ましたので、そういう意味で、やっと県庁全体で落ち着いて、本来の業務に邁進することができた、できるようになったというこの時期を捉えて、お二方に委嘱をさせていただくというのが私としての感覚に最も近いと思います。

司会／ほかにいかがでしょうか。

では窓側の後ろから2番目の方をお願いします。

記者／日経新聞の白井です。お話ありがとうございました。私もリニアの件で、県が当初多分リニアが通って利用される方によって県内消費の波及、経済波及効果が多分、年間300億以上あるみたいなふうにされていたと思うのですが、27年の開業が見通せなくなると、この辺りはどう変動すると見てらっしゃるのですとか、あと県として、この辺りの計画は修正して発表する予定があるのかみたいなところを教えてくださいたいです。

知事／何年も前に行った試算と今とではだいぶ変わってきているとそもそも思いますけれども、これは、まずJR東海あるいは国として、何年の開業を目指して取り組むのかということがまずはっきりしないと、いろんな対応、対策の見直しもできないと思いますので、先ほども申し上げましたけれども、一体何をいつまでにどう解決し、その見通しを立てていくのかということ、ぜひ明らかにしてもらいたいと思います。

記者／波及効果の上振れしそうとか、逆に、想定していたよりも少し少なくなってしまいそうみたいな、そういうことは現時点で検討していることというのは。

知事／それは特段今の時点でどういう変化があるかというのを把握しているわけではありません。

記者／わかりました。ありがとうございます。

司会／ほかにいかがでしょうか。

では今の方のすぐ後ろの方をお願いします。

記者／テレビ信州の北沢といいます。よろしく申し上げます。能登半島地震の関係でお伺いします。今日で3ヶ月というところになりますけれども現地にも視察に行かれたということで、改めて現地で感じられたことと、また部局長会議でもありました対策の強化も挙げられていましたけれども、そこにつながることで、何か感じましたら教えてください。

知事／能登半島、輪島市までずっと車で入って一番痛感したのは、やはり半島地域、そして山あいの地域の復旧・復興の難しさです。非常に道路交通も限られた道路でしか行けないという状況ですが、その道路もあちらこちらで2車線の道路が1車線しか使えないとか、あるいは道路もまだまだ段差が大きいとか、

非常にそういうことを考えると、物資の輸送であったり、人の往来であったり、そういう面でかなりのハンディキャップをまだ背負った状況での復興だなと感じました。

本県は半島ではありませんけれども、非常に山あいの地域、山に囲まれた、道路が1本途絶すると孤立してしまう可能性が高い集落を多く抱えている県ですので、そういう意味ではこうした中山間地域の復興のあり方、あるいは、地震防災対策のあり方、今回の能登半島地震から学ぶべき点がたくさんあると思っています。

また今回避難所も訪問しましたけれども、長野県は、避難所TKBということで、トイレ、キッチン、ベッドと、例えば、段ボールベッドの備蓄等も進めてきて、一定程度かつてに比べれば避難所の快適性を向上させる方向で取り組んできていますが、非常に大規模な災害になったときには、まだまだ対応すべきことがたくさんあるなと思っています。

今回の能登半島地震を見ても、やはり被災された皆さんにもいろんな思いがあって、例えば、避難所から離れたところに行けば宿泊施設が用意されているけれども、やはり身近なところからなかなか離れられない、あるいは離れたくない、われわれ行政だけが絵を描いても、やはり結果的には住民の皆さんの思いと乖離をしていけば有効な対策を講じることはできませんので、そういう意味では、われわれが対策を講じるに当たっても、やはり県民の皆さんの考え方ということもしっかり把握をしながら取り組む必要があるなということを感じているところです。

司会／ほかにいかがでしょうか。

真ん中の一番後ろの方をお願いします。

記者／信濃毎日新聞の森と申します。よろしく申し上げます。今日午前中に辞令交付がありましたが、本日付で武田教育長が就任されました。小中学校の教員としては初めての起用になるかと思うのですが、改めて起用された理由と、教育長に期待することについて、知事のお考えをお願いします。

知事／武田新教育長は、これまで義務教育の分野で大変ご尽力、ご貢献を頂いてきました。県の教育委員会の事務局でも勤務をされたこともあり、そして3月までは信濃教育会の会長ということで、長野県の教育の隅々まで、過去の信州教育から今に至る教育、そして様々な長野県教育の現場での取組に非常に熟知をされている方だと思っています。

私も何度も、武田教育長が就任される前にお話をさせていただきましたけれども、非常に問題意識を持って、子ども中心で教育のあり方を見つめ直していこうという思いを強く持たれている方ですので、まさにこれからわれわれが取り組もうとしている学びの県づくり、そして高校再編を含めた長野県の教育改革全般に力を発揮していただけるかなと考えています。

記者／ありがとうございます。あと教育行政は不登校支援であったり、教員の働き方など多岐にわたる課題があるかと思うのですが、知事の現状の認識として、教育分野に関する課題はどのような点があるとお考えでしょうか。

知事／いろいろありますが、今お話しいただいたように、一つは、やはり学校教育のモデルを新しい時代

に合わせていかなければいけないのではないかなと思っています。学校に行かない子どもたちも多く存在している中で、私も学校に行かない子どもたちと話をしていても、やはり学校のあり方そのものに問題意識を持っている子どもたちも結構大勢いらっしゃるなと思っています。

もとより学校だけに変えていく責任を負わせるのでは多分何も変わらないと思いますので、私の立場としては、教育委員会ともしっかり連携をしながら、県民全体の支援を頂く中で、県民全体で長野県からぜひ教育のあり方、学校のあり方を変えていこうと、そういう動きをつくり出していきたいと思っています。

それからもう一つ、やはり今ご指摘あったように、何ととっても学校の先生たちが子どもたちにしっかり向き合って、全ての持っている能力、人間性も含めて発揮してもらえるようにしていくということが重要だと思っています。

教員の皆さんの働き方改革、あるいは処遇の改善、こうしたこともこれからの子どもたちのための教育を実現していく上では大変重要なテーマだと考えています。こうした問題意識を、教育委員会、新教育長ともしっかり共有して取り組んでいきたいと思っています。

記者／ありがとうございました。

司会／ほかにございますか。よろしいでしょうか。

ないようでしたら、以上で知事会見を終了します。

知事／はいどうもありがとうございました。今年度もよろしく申し上げます。

お世話になります。